

2024 文化で滋賀を元気に!賞



大賞 映画で地域活性化文化賞

ムラヤマ・J・サーシさん／東近江市（受賞者・団体／主な活動地域 以下同じ）

〔講評〕

滋賀県では、ロケーションオフィスや、彦根、近江八幡など映画撮影のロケーション誘致や市民サポートなど、少しずつ映画産業による地域経済活動が広がる中、ムラヤマ・J・サーシさんは、東近江を舞台に地元の風景と地元の方が映画に登場する映画制作にこだわり、「しがえいが」の実現を目指している。

滋賀県には豊富なロケーションだけでなく、独自の文化も豊かだ。大道具が無くとも建物や設備そのまま使える造り酒屋なども多い。その舞台で、ありふれた日常を映像に切り取ることでドラマが生まれる。

ただ映画を撮るだけでなく、エキストラやキャストにも地元の人が出演することで一層の盛り上がりを見せる。その勢いは事業者にも伝わり、「ガチャコン！」シリーズでは近江鉄道がロケーションを提供するだけでなく社員も多く出演するなど、全面的にバックアップしている。

この活動を一過性で終わらないようにするためには、持続的な仕組みが必要だ。このために映画制作に係るワークショップを開催し、制作人材の育成も進めており、最近では県外からの参加者もある。

将来の人材を集められても課題は作品を発表する場所だ。視聴はWEB配信でも出来るが、制作に係った人々と鑑賞する場を共有することがやはり大切だ。映画に限らず、バンド活動、ダンス、芸能、様々な若者の活動にとって表現の場が身近にあれば、更に人材が滋賀県に集まるとムラヤマ・J・サーシさんは考えている。

東近江市だけでなく、滋賀県に映画文化を根付かせるための独自性ある取り組み、映画界・映像表現の未来につながる活動を評価し、何より「しがえいが」の実現に向けてエールを送りたい。

受賞者について

ムラヤマ・J・サーシさんは東近江市出身。東京で芸人として活動している時にクリエイターとしての活動も始め、カメラとパソコンがあれば自分でも映画が出来ること知り、本格的に映像作家としての道を歩み出した。

元々芸人として台本を書くのは得意で、月1本のペースでショートムービーを仕上げ、4本出来上がることに上映イベントを行い、作品を重ねると共に映像制作に係る仲間を増やしていった。この頃東近江市では地域を盛り上げていく検討をしている中、映画で盛り上げられないかとの声が上がリ、映像作家としての活動を知る同級生から声が掛かった。

企画は順調に進み第1作の「アイトウ戦士ハックサイズV」が完成。地元ケーブルテレビで連続放映されたが、盛り上がりはいま一つ。次作はストーリーだけではなく地元らしさをベースにした作品「ちょこパス！」を上映したところ大きな反響を呼び、シリーズは14本、10年間続いた。全員が手応えを感じ、東近江を映画の街ハリウッドに！企業化も目指そうと夢を語り合った。映画には地元で活動するバンドの曲も取り入れ、そのメンバーから次作は近江鉄道を映画にしようと提案があり、「ガチャコン!1」につながっていく。

地元の人たちは、一生懸命取り組んでいる人に応援と援助をしてくれる。もっと多くの人に知ってもらうためには映画に出演してもらうことが一番だと考え、「ガチャコン!2」では約600人に出演してもらった結果、上映日には600人以上が訪れた。

夢の実現に向け東近江に戻ったムラヤマ・J・サーシさんは、映画を撮るだけではなく人材育成も視野にワークショップを開く。本格的に映画の街へスタートした瞬間だ。

役者志望者に向けオーディションも行い、応募者は全員エキストラなどで出演できるようにした。ワークショップには若者も多く、持続可能な仕組みが構築できつつある。

製作資金についても地元でメリットを生み出せる事業収入の検討をしている。

今後は県内の他の市町にも活動を広げる予定だが、どこまでも滋賀県にこだわり、「しがえいが」として育てていきたいと熱く語る。



和太鼓で世界をつなぐ文化賞

和太鼓は世界をつなぐ滋賀夢プロジェクト 代表 山口有子さん／彦根市



「和太鼓は世界をつなぐ滋賀夢プロジェクト」は、和太鼓が持つ魅力や可能性を最大限に生かし、年齢、性別、国境、障害の有無等、様々な違いを越えて人と人をつなぐ活動を行っている。

2018年に和太鼓チーム「ひまわり太鼓」とオーストラリア・タスマニア州ロズニー高校との交流会が行われることになり、「ひまわり太鼓」に協力しようと、彦根、米原、長浜の太鼓仲間が集まり共同でプロジェクトを立ち上げたのが、きっかけである。

始めは障害者の皆さんに太鼓を教えるというところがあったが、彼らの自由なパフォーマンスに惹かれた様々な太鼓好きが集まり、自由な太鼓を共に打つ楽しさが原動力となってその後も活動が続いてきた。2024年3月に開催した「第1回がんばれ太鼓祭」は県内外で活動する和太鼓8団体160名が参加。自由なパフォーマンスと太鼓の響きが参加者にも観客にも伝わり、楽しさで人と人がつながる大きなウェーブとなった。

日々の稽古は、彦根の特別養護老人ホームを借用、施設の入居者にも楽しんでいただきながら存分に太鼓を打っている。第2回の太鼓祭は2025年3月、長浜伊香ツインアリーナに会場を移して開催。会場周辺に飲食施設がないことを心配した地元の人たちがマルシェを企画することとなり、より幅広いお客様を迎えるイベントになりそうである。常にオープンに周囲と交わり、互いに支え合う姿勢が活動の幅と質を高めている好例である。打てば音が出る誰もが親しみやすい和太鼓を真ん中に、音とリズムと楽しさを共有しながら、多くの人々の心と体の健康度と幸福度を高める取り組みを評価したい。

水源を歩く、山の旅文化賞

高島トレイル連携協議会 会長 谷口良一さん／高島市



高島トレイルは国内で2番目に整備されたロングトレイルコースである。トレイルとは、頂を目指さず、時間を競わず、自然の中を長く歩くことそのものを楽しみ、美しい景色と日本の歴史に触れ、人々の暮らしを感じることが出来る道を示し、ロングトレイルとは歩く旅を楽しむための道である。

日本には古くから山岳信仰に基づく修験道、移動や物流のための街道があり、トレイルはそれらの古道と交わることで歴史や文化に触れることができる。

高島には中央分水嶺が連なり、日本海側と琵琶湖を眺めながら歩くことができ、伊吹山地、鈴鹿山脈も眺望できる。足元に咲く珍しい植物や花に引き付けられるだけでなく、大陸からの文化や技術、日本海の高産物、戦国武将たちが山を越え、琵琶湖の水運や鯖街道を経て京を目指した古道が交差し、歴史ロマンあふれるトレイルが楽しめる。

高島トレイル連携協議会の谷口会長は、1996年に始まったマキノ赤坂山ガイドブック作成に実地調査から携わった経験から、豊かな自然を守り伝える活動が必要と考え、マキノ自然観察倶楽部設立に至った。この活動が、高島市合併時に旧6町村が一体となって取り組む象徴的な事業、高島トレイルの整備につながる。自然を損なわず、しかし安全に配慮した整備とガイドブックを作成。日帰りも楽しめるコースも設定し、繰り返し訪れていただくことで、地元に観光を通じた経済的循環も生み出している。

全国的に整備が進み、国内外の観光客にも広がっているロングトレイルだが、課題は持続していくことだ。谷口氏は観光客の受け入れとトレイルを結び付け、経済的循環ができるよう地元関係者と共に高島トレイル連携協議会を立ち上げた。またルート案内や自然観察だけでなく、古道の歴史も含めたガイドの後継養成には、自ら携わり次世代へつなげる活動も整えている。日本のロングトレイル先駆者として、滋賀県にとどまらず世界にも、トレイルを通じた日本文化を伝える活動に発展することを期待し応援したい。

セタジミから広がる文化賞

セタジミ祭実行委員会 代表 小島俊明さん／大津市



セタジミ祭は1984年大津市で開催された第1回世界湖沼会議を契機に、当時琵琶湖の環境変化や乱獲など様々な要因により絶滅の危機に瀕していたセタジミを取り戻そうと、4月23日を“シジミの日”と定め、1985年より開催されている。

セタジミの復活・再生だけでなく瀬田川の環境保全も視野に、流域の漁業関係者、ボート競技や観光船などの瀬田川利用団体、環境団体等により構成された実行委員会が企画運営し、2025年で40年を迎える。

家族連れなど一般参加者が中心で、漁船に乗って手掻きシジミ漁の体験、稚貝の放流、投網体験など、シジミだけでなく瀬田川の漁体験ができる。またシジミ汁や瀬田川流域の渓流魚塩焼き、湖魚の佃煮、ブラックバスの唐揚げなどの食体験、ドラゴンボート乗船体験などの企画と、子供たちに向けた環境学習コーナーなど、瀬田の唐橋周辺が一日中賑わうイベントとなっている。

近年は水質以外に、特定外来植物オオバナミズキンバイの大量繁茂という大きな問題が発生し、2013年に瀬田川流域の漁業者、漁協が中心となって活動組織「瀬田川クリーン作戦」が設立された。NPOや市民団体、自治組織で構成し、セタジミ祭に参加して瀬田川の環境に関心を持った地元企業や学生ボランティアも集まり、特定外来植物の駆除を年4回実施している。こういった呼び掛けに多くの参加者が集まり活動を継続できるのも、長年開催されているセタジミ祭の存在が大きい。

シジミの再生を通じて環境を学び、漁などの地域文化を学び、食文化を学ぶことは琵琶湖と滋賀の文化継承にもつながっている。また多様な年齢層に支持され、県外からの参加者も増えていることは継続の賜物と高く評価し、セタジミ祭がこれからも地域のイベントとして愛され続けることを祈りたい。

表彰概要	■表彰の種類	(1)各賞 文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に貢献している団体または個人(若干名) (2)大賞 (1)の受賞候補のうち最も評価された団体または個人(1名) (3)各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定
	■表彰式	令和7年2月24日(月・休) びわ湖ホール小ホール ※受賞者には賞状と賞金(大賞10万円、各賞5万円)を贈呈。
	■募集期間	令和6年7月12日(金)～10月31日(木)
	■候補者	募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀に提出。自薦、他薦は問わない。
	■選考	令和6年12月5日(木) 選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を選考。
選考委員		秋村 洋〔㈱ブラネットリピング代表取締役〕、高梨 純次〔(公財)秀明文化財団理事〕、 波田 晋一〔㈱しがぎん経済文化センター取締役社長〕、南 千勢子〔ピアニスト〕、 村田 和彦〔(公財)びわ湖芸術文化財団理事長〕